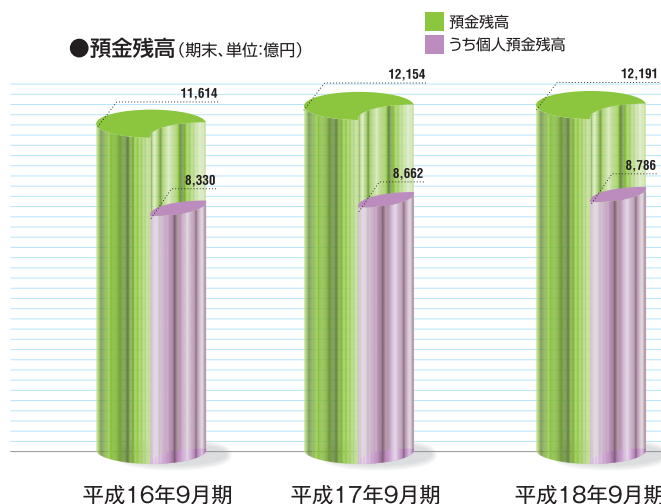


平成18年度中間期業績の概要

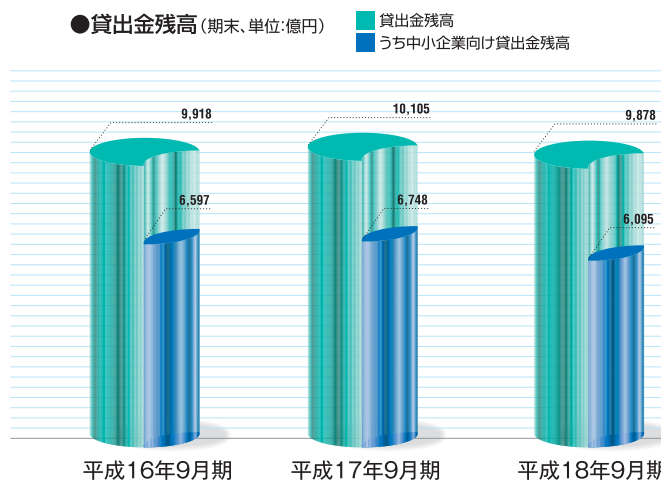
1 預金について

預金残高は、1兆2,191億円となりました。このうち個人預金残高は、8,786億円となり順調に増加しました。



2 貸出金について

貸出金残高は、9,878億円となりました。このうち中小企業向け貸出金残高は、6,095億円になりました。
なお、不良債権処理にともない約530億円のオフバランス化を行っています。



3 利益について

福岡銀行との経営統合に伴い、財務基準等を福岡銀行の基準に統一し自己査定を実施した結果、一般貸倒引当金繰入額が52億61百万円となり、業務純益は3億36百万円となりました。さらに、不良債権処理損失額519億58百万円を計上した結果、中間純損失は478億58百万円となりました。

利益の状況

(単位:百万円)

	平成16年 9月期	平成17年 9月期	平成18年 9月期
業 務 純 益	7,128	6,840	336
与 信 関 係 費 用	4,254	4,082	57,220
経 常 利 益 (△は経常損失)	2,564	2,823	△52,795
中 間 純 利 益 (△は中間純損失)	2,553	2,441	△47,858

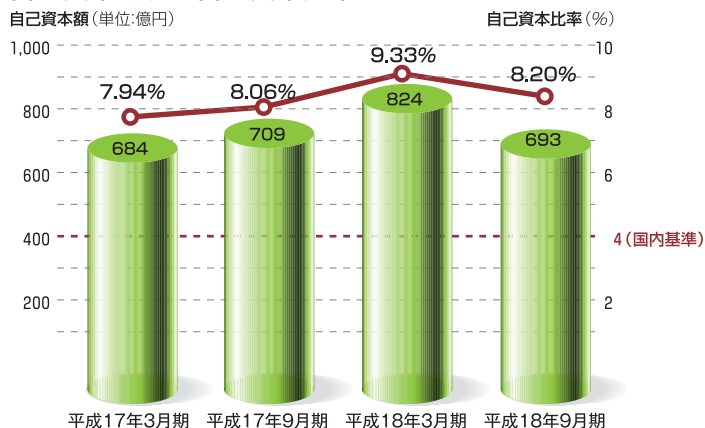
用語のご説明

- 業 務 純 益** 預金・貸出金・為替等の銀行本来の業務で得た利益です。
- 与信関係費用** 一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理損失額
- 経 常 利 益** 業務外の活動も含む銀行全体の利益ですが、土地の売却損益や災害による損失等の特別なものは除きます。
- 中 間 純 利 益** 経常利益に特別損益を加え、そこから税金等を引いた最終利益です。

4 自己資本比率について

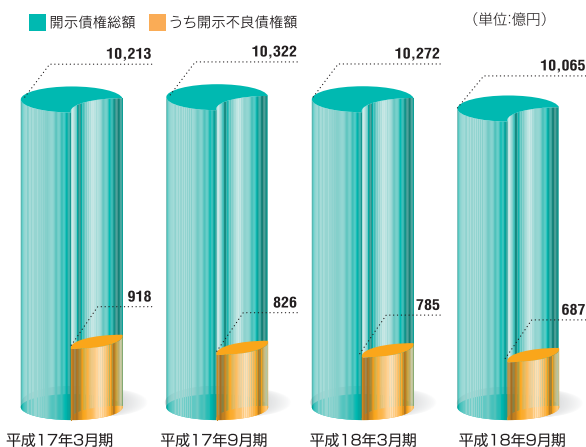
自己資本比率とは銀行の健全性を示し、銀行の体力をみる上で重要な指標の一つです。当行のように国内のみで営業する銀行は4.0%以上であることが義務づけられており、当行の自己資本比率は8.20%（連結ベース8.21%）で、この4.0%を大きく上回っています。

自己資本額及び自己資本比率



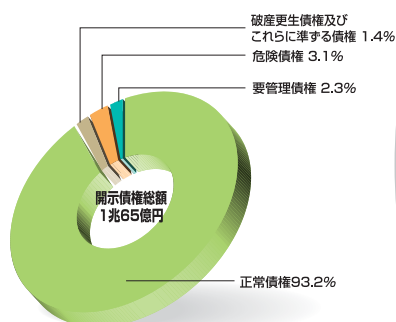
5 不良債権について

金融再生法に基づく開示不良債権は、平成18年3月期比97億円減少し687億円となりました。これらの債権については、担保・保証等や貸倒引当金で80.8%をカバーしています。



金融再生法に基づく開示債権の状況（単体）（平成18年9月末）

区 分	金 額 (A)	担保・保証等による 保全額 (B)	個別貸倒引当金等 残高 (C)	保全率 $\left(\frac{B+C}{A}\right)$
破産更生債権及びこれらに準ずる債権 (イ)	144	104	40	100.0%
危 険 債 権 (ロ)	315	126	138	83.9%
要 管 理 債 権 (ハ)	227	88	58	64.4%
不 良 債 権 計 (イ+ロ+ハ)	687	318	237	80.8%
正 常 債 権 (ニ)	9,377			
合 計 (イ+ロ+ハ+ニ)	10,065			



用語のご説明

破産更生債権及びこれらに準ずる債権
破産、会社更生、民事再生等の事由により、経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

危険債権
債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。

要管理債権
3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権です。

6 格付取得について

当行は、株式会社日本格付研究所より格付を新規に取得しました。

全10段階の内、4番目の投資適格のレベルです。

①AAA ②AA ③A ④**BBB** ⑤BB
⑥B ⑦CCC ⑧CC ⑨C ⑩D

1.格付対象	※長期優先債務
2.格付	BBB（トリプルBフラット）
3.格付機関	株式会社日本格付研究所（JCR）
4.格付取得日	平成18年2月10日
5.格付取得の目的	客観的な第三者による評価を取得することにより、当行の財務内容や収益性をご理解いただくとともに、機動的な資金調達手段を確保し財務内容の健全性や経営の透明性を高め、今後の経営に生かすため。

※長期優先債務格付とは、債務者の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。